

第6回「田んぼをつかった花畑について」

「松崎町花畑実行委員会」を中心に、来年の花畑は広く協力者を募って資金を集め、規模を縮小してでも継続したいという話を聞き、私は大いに期待しています。岩科学校にある「岩科起て」の心意気を彷彿とさせるものと感じています。岩科学校は佐藤源吉翁中心に、岩科の人たちが多くの資金を拠出し合い建てたもので、当時の人たちの教育に対する情熱の発露だと考えます。

花畑は18年間実施され、投資額は1億3000万円超になります。観光客誘致の「呼び水効果」を期待した訳ですが、交流人口は、平成28年32万人で平成3年比57万人の減少、宿泊客数は、平成28年10万人で平成3年比25万人の減少、宿泊施設は、平成29年72施設で平成4年比145施設と激減しています。花畑をやっていたから、この程度の減少にとどまったのか私にはわかりません。しかし、町の資金を投入するからには、できるだけ公平に町全体に波及させなければいけない、観光に従事していない町民にも配慮しなければいけない、行政も惰性に陥ってはいけないと思う訳です。私は町議時代から全世帯を回りましたが、花畑は否定的な意見が圧倒的でした。この方たちは花を愛でる気持ちのない方でも、観光はどうしても良いと考えている方でもなく、税金をもっと将来に向けて効果的に使ってくださいという、静かですが毅然とした意見です。私は花畑をずっとやらないとは考えておりません。今回は立ち止まり、原点から見直す、花の種類、規模、売店等はどうするのか、町民全体が楽しみ観光客増加につながる花畑でありたい、民間有志が頑張る方法も当然あって良いと思います。